



## 初出版の拙著単行本は ロングセラー!?

SAM日本チャプター理事・広島支部長  
株式会社ロジタント 代表取締役

吉田 祐 起



今春出版した、生まれて初めての拙著単行本が「ロングセラー」になる!? と多くの読者が言ってくれます。著者である私も実はそう思っているのです。ベストセラーのべの字も想像だにしないシロモノですが、これから徐々に息の長い広い購読層を獲得することをひそかに確信しています。「トラックドライバー帝王学のすすめ」と題する本書のサブタイトルが「ザ・プロフェッショナルズ」への教科書」としていることにその潜在性を感じます。電子書籍と同時出版した文芸社(東京新宿)が本書を「優良図書(販売促進商品)」として扱ってくれていることもひとつの要因です。

本書出版を待ち構えていたように、大量一括購入してくださった企業が数社ありました。上場直前のクライアント企業さんは4百冊を購入して役員を含む全社員に配布されました。今春採用の大学卒新入社員12名(男女半々)には期限付きで本書を読破の上、感想レポートの提出を求められました。その中で一人の女性総合職の方が書かれました。「私自身もトラックドライバーになりたいと考えるようになった」と。著者にとって何ものにも勝るガッツ感であり、著者冥利に尽きる、の一言です。本書のインパクトここにあり!と感じた一幕でした。

さて、全国で活躍する5万8千社の運送会社経営者と、そこで働く80数万人のドライバーを対象にした本書ですが、ある皮肉な予想が的中(?)しました。本書「終章」で書いている一節を再現して、それが何であるかを述べましょう。

「…本書原稿をご覧になったある運送会社の社長さんが、いみじくもおっしゃいました。「吉田さん、個トラ反対の経営者やドライバーがこれを読んだら、ひょっとして、快く思わないかもしれませんね…。買ってくれないかもしれませんね…」と。正直なところ、私は当初よりそのことは覚悟していました。そこで、

大変に生意気な発言ですが、そのとき、私は毅然としてその社長さんに返しました。「もし、そのような企業労使があるとしたら、失礼だが、その人たちは21世紀には生き残れないセクトになると、敢えて忠告したい心境です。本書がそういった間違った考えを修正するチャンスになれば幸いです」と。くだんの社長さんは「うーん、そうだろうな…」と絶句し、納得してくださいました。」

あらためて本書をめくって経営者に「苦言」とも思える箇所を拾い出してみました。16箇所あります。その箇所は、21世紀型運送事業経営者としてクリアしなくてはならないと著者が指摘する経営者姿勢です。もともと格別に意識して書いたわけではないのですが、ドライバー諸君に対する「帝王学のすすめ」を進講する上で、避けて通れないそれは経営者側に求められる対応であり、認識すべきことであるからです。

前述した会社のように、本書を締め買いして社員全員にば〜んと与え、読んでおけ!と言える経営者をご立派アス! 反対に、指摘されたこれらの箇所ゆえに、社員に本書を読ませては都合が悪い、と感じる経営者は?? です。両者の間ではドエライ格差が生じます。いずれも数年後に期待される「個人トラック制度認可時代」の到来を前提にしてのことですが、前者の労使は待っていました! とばかりに「労使関係」から「元請け・下請け契約」への円満シフト。後者の場合はやる気満々のドライバーが荷主を奪ってスピニアウトする光景が目につかびます。

本書はしたがって、経営者にとっては「現代版踏絵」か「リトマス試験紙」みたいなものを演じるでしょう。個トラ認可問題が再燃するときの企業労使双方の心構えと対応の教科書として本書がロングセラーになる!? とする所以です。